



第15週の発生動向 (2005/4/11 ~ 2005/4/17)

- インフルエンザについては、五所川原、上十三保健所管内において**警報**が継続していますが、減少傾向にあります。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎については、弘前保健所管内において、先週に引き続き**警報**が出されております。
- 咽頭結膜熱について、むつ保健所管内において**警報**が出されました。

第15週五類感染症定点把握

保健所名 疾患番号・疾患名	青森		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	
(72) インフルエンザ	69	5.31	99	6.19	94	6.71	114	16.29	117	13.00	30	5.00	523	8.05	-278
(60) 咽頭結膜熱							1	0.20			8	2.00	9	0.21	6
(61) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	16	2.00	42	4.20	3	0.33	2	0.40	12	2.00	1	0.25	76	1.81	6
(62) 感染性胃腸炎	42	5.25	68	6.80	6	0.67	13	2.60	17	2.83	20	5.00	166	3.95	-14
(63) 水痘	10	1.25	10	1.00	21	2.33	3	0.60	6	1.00	5	1.25	55	1.31	19
(64) 手足口病			3	0.30	1	0.11	1	0.20	2	0.33	2	0.50	9	0.21	-5
(65) 伝染性紅斑	4	0.50	1	0.10	3	0.33					2	0.50	10	0.24	6
(66) 突発性発しん	4	0.50	5	0.50	5	0.56			8	1.33	1	0.25	23	0.55	2
(67) 百日咳															
(68) 風しん															-1
(69) ヘルパンギーナ			1	0.10									1	0.02	-3
(70) 麻しん(成人を除く)															-1
(71) 流行性耳下腺炎	2	0.25	2	0.20	3	0.33	6	1.20	1	0.17	1	0.25	15	0.36	2
(73) 急性出血性結膜炎															
(74) 流行性角結膜炎							1	1.00	1	0.50			2	0.18	1

保健所名	定点数			
	インフルエンザ (内科+小児科)	小児科	内科	基幹
青森	13	8	5	2
弘前	16	10	6	3
八戸	14	9	5	2
五所川原	7	5	2	1
上十三	9	6	3	2
むつ	6	4	2	1
合計	65	42	23	11

■ は警報 ■ は注意報 「空欄」: 患者発生数0

表以外の感染症法対象疾患 (17年計には、今回届出された人数を含む)

- (50) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症(五類全数把握疾患) 八戸保健所管内: 1人 (17年計 1人)
(82) マイコプラズマ肺炎(五類基幹定点把握疾患) 八戸保健所管内: 3人 (17年計 35人)



劇症型溶血性レンサ球菌感染症 (invasive group A streptococcal infection)

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、A群溶血性レンサ球菌により急激に進行する敗血症性ショック病態で、早期に適切な治療を行わないと致死率が高くなる病気です。

患者の多くは中高年者で、突然の発熱で始まり、約24時間以内に血圧低下などのショック状態になります。

多くの場合、四肢などの軟部組織の壊死性菌膜炎、筋炎などを起こし、皮膚が赤紫色に変化します。また、水疱の形成や表皮剥離がみられるときもあります。

上気道粘膜や創傷にA群レンサ球菌が感染した後に続発しますが、感染経路が不明な症例もあります。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症患者数(全国)



青森県においては、平成13年に1人の発生がありました。

国立感染症研究所感染症情報センターホームページより引用